山梨市小学校経営研究会

社会の変化に主体的にかかわる教育の推進
－国際社会を主体的に生きる資質や能力をはぐくむ国際理解教育－

Ⅰ　はじめに

これからの国際社会で生きていくためには，自分とは異なる文化をもった人々と共生していくという視点に立って，子どもの資質や能力を育成していかなければならない。

そのためには，広く国際社会に生きる日本人として，自国の文化や伝統を尊重する態度を育むとともに，異なる文化をもつ人々と互いの文化を認め，理解し尊重し合う態度を養うことが必要である。さらに，異なる文化の人たちと意志の疎通を図ることのできる表現力や幅広いコミュニケーション能力を身に付けることも重要である。

外国語活動をはじめ，様々な教育活動を通して豊かな表現力やコミュニケーション能力を育て，活用する教育の推進について，校長の果たすべ役割や在り方について研究を進めることとした。

Ⅱ　研究の概要

山梨市では，平成１５年度より市独自の外国語指導助手（ＡＬＴ）と日本人英語指導助手（ＪＴＥ）を小学校に派遣して英語活動に積極的に取り組んでいる。国際理解教育の一環としての位置づけで，英語に親しみ意欲的にコミュニケーションをしようとする態度を育てることをめざしている。小学校英語活動推進協議会を設置し，各学年の年間指導計画と英語活動案をまとめた「山梨市小学校英語活動案集」を作成し，これをもとに学級担任，ＡＬＴ，ＪＴＥの三者で授業を実践している。英語活動に関する実態や意識を調査し課題を洗い出し，その解決に向けての取り組みと校長の関わりについて明らかにするとともに各校の国際理解教育の実践を報告し交流を深めていく。

１　研究計画

１年次（平成２０年度）

・研究計画の立案

・英語活動に関する実態・意識調査（問題点や課題の洗い出し）

２年次（平成２１年度）

・課題解決に向けての取り組みと校長の関わり

・各校の国際理解教育の交流

・研究のまとめ

２　研究内容

市内１１小学校の教諭（１２５名）を対象に行った「英語活動に関する実態・意識調査」の結果から明らかになったことは次の通りである。

・多くの教師は「英語は好きだが，指導には自信がない」と回答している。

・英語活動の指導に負担を感じていないが過半数（５３．３％）だが，負担を感じている（４６．７％）との回答も多い。
・英語活動の指導にＡＬＴが必要だと思う割合は１００％で，ＡＬＴを大変頼りにしている現状が伺える。
・望ましいＡＬＴとしては，「日本語がわかり，話せる人。英語に親しみをもたせ，楽しく教えられる人。明るく元気で，子どもが好きな人。」等を挙げている。
・英語活動の指導にＪＴＥが必要と思う割合も９８．４％と大変高く，ＪＴＥが果たしている役割が大きい。
・英語活動を行う上での課題は，「指導する教師の指導力」「教材の開発や準備のための時間」「ＡＬＴやＪＴＥとの打合せの時間」の順となっている。
・英語活動を行うことで児童のよい変化として，「英語に慣れ，英語活動を楽しんでいる」に次いで，「外国人に対して物怖じしなくなった」「異国の文化への関心が増した」が挙げられている。
・英語活動を行うことで教師のよい変化として，「英語活動への関心・必要性の認識が高まった」に次いで，「英語に関する抵抗感が薄れてきた」が挙げられている。
・すべての児童が大人になるまでに身につける必要がある英語力は，「あいさつや簡単なやりとりなどの平易なコミュニケーションができる程度の英語力」が最も多く，「仕事で使える程度の英語力」を望む教師は１名である。
・英語活動を行う上で重要と思うのは，「英語に対する抵抗感をなくすこと」「英語の音やリズムに触れたり，慣れたりすること」「外国の人と交流すること」「外国の文化や生活を知ること」「英語を聞いたり，話したりすること」と多くの教師が回答している。「英語の文字や文章を読むこと，書くこと」はあまり重要とは考えていない。
・「英語はできるだけ早い時期から」「英語が話せるようになることは必要だ」と考える教師が多数を占めている。また，「小学生から英語を学ぶと効果は大きい」と考える教師も多く，小学校で英語活動を行うことには抵抗感は少ないようである。
・「英語活動の指導に自信がない」との回答が高い割合であるが，多くの教師がＡＬＴやＪＴＥを「とても必要である」と思っていること，「山梨市小学校英語活動案集」を「活用している」が高い割合であることと深く関わっていると思われる。

Ⅲ　まとめと課題

・児童のよい変化は，重要と思われる英語活動とほぼ一致しており，これまでの山梨市の英語活動が好ましい方向で実施されてきたことが伺われる。
・校長の果たすべき役割として，英語活動の指導で教師を支援するＡＬＴやＪＴＥの配置，「山梨市小学校英語活動案集」などの条件整備がある。
・英語活動の指導に「自信がない」割合は高く，「指導する教師の指導力」が課題として最も多く挙げられている。今後，どのようにして教師の指導力を向上させ，自信がない割合を減らしていくかが課題である。
・現在，山梨市で実践している小学校全学年での英語活動を今後も継続して取り組み，より充実していくことが必要である。　　（部長　芦 澤 俊 夫）